

兵庫の林業

令和4年度兵庫県森林林業関係予算の概要
新たな指導林家・青年林業士の紹介



もくじ

第300号発刊にあたって・・・・・・・・・・ 1
第300号に寄せて・・・・・・・・・・ 1
県庁林業関係組織の改編・・・・・・・・・・ 2
県林業関係幹部異動者のあいさつ・・ 2～3
森林ボランティア活動・・・・・・・・・・ 4
2025大阪万博に巨大な木製リング
ができるってご存じ!!・・・・・・・・ 4
令和4年度

林務課予算の概要・・・・・・・・・・ 5～7
治山課予算の概要・・・・・・・・・・ 7～9
自然・鳥獣共生課

鳥獣対策予算の概要・・・・・・・・・・ 10
△普及だより▽

「都市部に暮らす県民のSDGsへの
意識啓発に向けて」・・・・・・・・・・ 11
狩猟免許試験のご案内・・・・・・・・・・ 12
林業技能講習会等のご案内・・・・・・・・ 12
新たな兵庫県指導林家、青年林業士
の紹介・・・・・・・・・・ 13～14
県内の原木市況等・・・・・・・・・・ 14
「兵庫の林業300回をふりかえって」・・ 15
「ひょうごの木の物語」第1話(裏表紙)
題字・・ 兵庫県知事 齊藤元彦氏

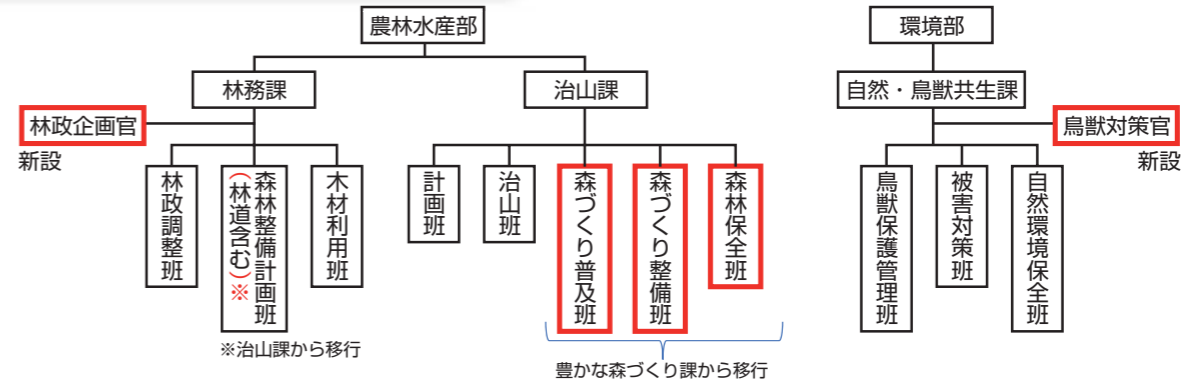
表紙の写真

石堂家住宅(佐用町)
築二五〇年余の木造入母屋茅葺き
農家(大庄屋)住宅

(裏表紙に続く)

本庁において組織の改編があり、林業関係課においては、農政環境部が農林水産部と環境部に改編されました。森林参事が廃止され、豊かな森づくり課、森林保全室は治山課へ統合、鳥獣対策課は自然環境課と統合し、自然・鳥獣共生課となりました。

県庁林業関係組織の改編について



林務課長就任のご挨拶

峯 陽 治 郎



このたび、林務課長を拝命しました峯でございます。平素は森林林業行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年度は、①主伐・再造林低コスト普及モデルの構築とJクレジット制度の取組拡大による「資源循環型林業の推進」、②奥地等条件不利地における間伐の推進と多数の県民利用が見込める施設の木造・木質化の促進のための「森林環境譲与税の積極的な活用」、③ひょうご木の匠登録工務店、ひょうご木製品マイスターによる「県産木材の利用拡大」を中心に、川上から川下に至る各場面で支援を行ってまいります。

さて、人工林が成熟化する中で主伐・再造林の取組拡大など、これまで経験の無い局面を迎えようとしています。林業は結果が出るのに50年以上と超長期にわたることから、昨今の激動する社会経済情勢を正確に見通すことは、至難の業であります。

その一方で、短期的な視点だけで判断することは避けなければなりません。他産業とは毛色の違う林業に携わる各事業体が一致団結して、軌を一にして対応することが、将来の利益を享受することにつながるものと信じています。

国内外では、コロナ禍、ロシア軍のウクライナ侵攻など不安定な社会情勢を背景にウッドショック、円安、物価上昇と急激な変化が訪れております。さらに本県では、行財政運営方針を見直した「県政改革方針」をこの3月に策定し、県の事業や組織の見直しが進められています。このような時こそ、大所高所から物事を判断することが求められているのではないのでしょうか。現場の実態や声をよく把握して、諸課題に取り組んでまいりますので、今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

治山課長就任のご挨拶

前 嶋 昭



このたび、治山課長を拝命しました前嶋でございます。平素は、兵庫県の森林林業行政の推進にご協力をお願いいたします。本年度は県庁組織の再編が行われ、農政環境部が農林水産部と環境部に再編され、部内の課室においても治山課は林道事業関係

が林務課へ移りましたが、豊かな森づくり課と森林保全室の事務を引き継ぐことになりました。治山課組織が拡大され、身の引き締まる思いですが、皆様には一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。さて、本県は森林面積が約7割を占め、森林の公益的機能を維持・発揮させることが県民生活と密接に結びついています。

このため、山地災害の復旧や災害の未然防止のため、治山ダム等の設置を進める治山対策や、保安林の指定の推進、林地開発許可制度の適正な運用、ナラ枯れ対策等の森林病虫害対策を一層進めて参ります。また、「新ひょうごの森づくり」では、人工林の間伐対策や里山林の再生、森林ボランティアや企業による森づくりの推進等に取り組んで参ります。県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」では、流木・土砂被害対策としての緊急防災林整備や六甲山系での都市山防災林整備、野生鳥獣被害対策としての野生動物共生林整備等を引き続き推進して参ります。今後、皆様方には様々な面でご指導、ご協力を賜ることになると考えておりますので、何卒よりしくお願いいたします。

第300号発刊にあたって

一般社団法人 兵庫県林業会議会長 石川 憲 幸

このたび、「兵庫の林業」が第三〇〇号を迎えることとなり、昭和三十二年創刊以来、約六十五年継続出来ましたことは、これまで支え育てて下さった読者の皆様や県当局はじめ関係者の熱意とご努力の賜物であると心から感謝申し上げます。

『若葉も伸びる日本も伸びる』と創刊号に小学生の緑化標語作品が掲載されていますように、戦後復興期から経済成長期へ、時の池田勇人首相が国民所得倍増計画を打ち出すなど右肩上がりの時代の始まりでした。

経済成長に伴い、旺盛な木材需要に国内資源のみでは追いつかず木材の緊急輸入が行われたものこの頃でした。このため、国策として強力に森林資源の培養が進められ、国や県では公団や公社などの造林機関の設置や、入会林野の近代化による造林など官民こぞっての取組により、年間一千ヘクタールを超える拡大造林が進み、県下二十二万ヘクタールの人工林が造成されました。

以来幾多の社会経済の変動を経ながら、営々と先人が育ててこられた人工林が今や続々と伐採利用可能な林齢に達し、面積だけでなく

く十分な蓄積も擁するようになりました。

現代では、森林に対し、木材生産だけでなく県土の保全、地球温暖化防止、水源涵養など多様な機能の高度発揮が求められています。そのためには、この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」というサイクルをフル回転させることが重要な課題であります。

これには、先人が森を慈しみ育てられたように、我々林業に関係する者一人ひとりが、木と親しみ使っていく、そして多くの人々に働きかけていくことが必要ではないでしょうか。

世界では、山火事や洪水、台風の大型化など気候変動などに対する地球環境問題がクローズアップされ、温室効果ガスの削減による温暖化防止への国際的な取組が進められています。

地球規模での課題も、まずは我々の足元から一步一步行動していくことが重要なことだと考えます。

兵庫の森に明るい未来の光が輝きますことと、今後も「兵庫の林業」が皆様に支えられ継続されることを切に願っています。

第300号に寄せて

兵庫県農林水産部参事（公社）ひょうご農林機構専務理事 塩谷 嘉 宏

「世界のワンちゃん」王貞治さんが、春の甲子園で投手として優勝したのが65年前。その後、野手へ転向し、壮絶な猛練習から生まれた一本足打法を最終打席まで貫いた王さんが語った言葉は「努力は必ず報われる」です。

「山に木を育てる」という林業。保育から始まり長い年月をかけて築き上げてきた貴重な財産。言い知れぬ苦勞を積み重ねられた先人の努力にも計り知れない重みがあるはず。この歩みを記録してきた「兵庫の林業」が65年間も続いている意義は極めて大きく、この記念号に執筆させていただくことは、林学職員に身をおいている者として、深く感謝いたします。

前回の二〇〇号から振り返ってみて、森林所有者の負担ゼロの森林管理100%作戦による間伐や県民緑税を活用した災害に強い森づくりの創設など、兵庫の森林を守りたい、次世代に繋ぎたいという想いで奔走された先輩たち。この動きにより国で法整備された森林環境譲与税など、森林の公益的機能や二酸化炭素の森林吸収源に対する県民や社会の理解をゆるぎない地位に定着させたことは大きな

成果です。

創刊当時から現在まで、森林林業政策を取り巻く環境は、目まぐるしく変わってきています。「守るべきものを守り、変えるべきものを変える」時を同じくして新県政も大きな改革の節目にあります。緑の社会資本とも言える豊富な森林資源を、どのように循環させていくのか、林業関係者も初めての経験を迎えます。守るべきことを平静に受け入れ、変える勇気を持つ。そして、その違いを見極める経験や知恵が求められてきます。

そのような意味でも、記念号発刊を機に、幅広い情報や知見が詰まっている本誌の歴史を遡って、先人の思いや先輩たちの残した足跡を学ぶことは意義のあることです。折しも四〇〇号は、政府が目指す「2050年カーボンニュートラル」のゴール目前。林業関係者が結びつき、「山も森も木も」そこに関わる全ての人が適正に利益を得られ、次世代に受け継がれる林業の実現を追い求め、努力を重ねたいです。そして、本誌が我々の応援団となってくださることを心からお願ひ申し上げます。

林務課林政企画官就任のご挨拶

岸本 健吾



このたび、林務課林政企画官を拝命しました岸本でございます。

平素は、本県の森林林業行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本県の分収造林事業については、昭和37年に林業公社（現（公社）ひょうご農林機構）を設立し、奥地等の条件不利地で土地所有者に代わり造林を進めてきました。その面積は2万haと県下人工林の1割を占め、同公社の適正な森林管理により、公益的機能の高度発揮や、建築用や燃料用木材の供給基地としての役割を果たしています。一方、主伐収益を得るまで最長80年と超長期にわたる当事業は、経費を借入金で調達することから、その累増などが課題となっています。引き続き、事業のあり方を検討し、その機能の享受に努めてまいります。

また、兵庫県森林組合連合会が取り組む木質バイオマス事業は、これまで林地に残されていた低質材を高値の固定価格で買い取ることで、森林所有者に利益が還元され、更なる森林整備の促進に貢献してきました。ウッドショックで木材市況が変化する中ですが、その経営改善等に取り組んでまいります。

これらの課題に全力を尽くしますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

自然・鳥獣共生課鳥獣対策官就任のご挨拶

河田 忠紀



このたび、鳥獣対策官を拝命しました、河田でございます。

平素は、野生鳥獣の保護管理の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、市町との連携のもと、森林動物研究センターの研究成果を活かした「個体数管理」「被害管理」「生息地管理」を総合的・計画的に推進する野生動物の保護管理（ワイルドライフ・マネジメント）を行っています。

近年、農林業被害額は減少傾向にあります。生息範囲の拡大や、生息数や被害が拡大している地域もあることから、引き続き、シカ・イノシシ対策の強化、獣害に強い集落づくり、狩猟者の確保・育成を推進します。また、狩猟者の高齢化が進む中、野生動物管理に関する知識や高度な捕獲技術力を持つ人材を養成するため、射撃技術やわな捕獲手法の研修機能をもつ「県立総合射撃場（仮称）」の整備を進めます。

今後とも、皆様方より一層のご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

森林ボランティア活動

ヤッホの森湿地を育む会

代表 田中 義則

たつの市揖保川町黍田にあるヤッホの森は、かつて里山林整備事業により整備がなされ、面積は約80ha、標高は約200mで、数多くの古墳が見られます。また、尾根筋からは瀬戸内海や明石大橋も望めます。

この森には、江戸時代に密かに耕作され、「隠し田」と呼ばれていた水田跡（湿地）があります。長い間放置されてきたため、湿地には草木が侵入して陸地化が進み、わずかな面積しか残っていません（約0.3ha程度）。

「今のままではいつの日かすべてが失われてしまう」、「湿地を何とかしたい」という思いから、平成28年9月に「ヤッホの森湿地を育む会」を立ち上げ、湿地の保全と維持活動を実施してきました。

主な活動内容は、①湿地内の不要な植物の除去、②湿地内に



湿地に咲くサギソウ

水が均等に拡散するように伐採木を等高線状に設置する作業、③湿地及び周辺の動植物の調査などです。活動を始めて5年ほど経ち、サギソウ、トキソウ、サワギキョウ、モウセンゴケ、モリアオガエル、ニホンアカガエルなど貴重な動植物が再び見られるようになり、その後も段々と増えつつあります。

今後、湿地の貴重植物の保全と生物多様性を維持しながら、小学校や多くの方々の環境学習などに活用していく考えです。そのためには、これからも湿地の維持・管理のための保全活動を継続していく必要がありますが、会員数が少なく、なかなか思うように保全活動が進まないのが現状です。

湿地の維持・保全には、多くの方々の参加が得られてこそ実行に移せるものと思っています。ぜひ一緒に活動してみませんか。



環境学習の風景

卒業生（4期生）全員の進路が決定しました。進路については下表のとおりで林業事業体・木材関係に加え、森林系の公務員に進む者が多かったです。

○ 求人状況

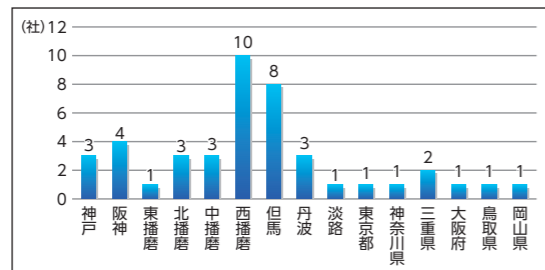


図 求人状況

○ 求人状況

森林経営や森林林業に関わる人材を幅広く育成する専修学校兵庫県立森林大学校では、去る三月十八日、第4回卒業式を行い、十一名が社会人として巣立っていきました。卒業生の進路等については次のとおりです。

県立森林大学校卒業生の進路等について

卒業生の今後の活躍を期待しています。

進路	人数
森林組合	1
林業事業体	1
木材関係	2
公務員	3
団体職員	1
その他	3
計	11

○ 学外就業体験と就職

本校では、就業イメージを掴み、実社会への適応能力向上を図るため、2年間で6週間の学外就業体験を実施しています。第1期生は、4期生で学外就業体験の受け入れ先企業に就職を内定させた学生は、計二十三名となっています。また、平成三十年度からは、職業紹介事業にも取り組んでおり、本校が事業者と学生の雇用関係の成立を斡旋しています。

○ 公開講座について

当校研修科では、森林や林業・木材を取り巻く事柄に興味や関心を持っていただくため、一般の方を対象とした講座を実施しています。詳細は県HPに順次掲載します。興味をお持ちの方は是非ご参加ください。



2025大阪万博に巨大な木製リングができるって存じ!!

2025年大阪・関西万博は、4月13日から10月13日まで、大阪市臨海部の夢洲で開催予定です。「いのち」をテーマに未来への希望を世界に示す万博を目指しています。2022年の今、世界の秩序が大きく損なわれようとしており、加えて引き続きコロナ禍にあって激動の時代を迎えています。だからこそ意義深い催しになるよう期待します。さて、左のイメージ図のとおり各国のパビリオンを大きく囲む木製リング（大屋根）が計画されているのはご存じですか？直径700m、円周2200m、幅30m、高さ10〜12mという巨大な施設で、来場者を陽射しや雨から守り、主動線になるようです。地元大阪府木材連合会では、リングの構造材を大径の丸太仕様とし、日本の森を世界にアピールしたいと積極的な運動を展開されており、先日、兵庫県林業協会にも協力依頼がありました。（事務局 菅原 健）



（提供…2025年日本国際博覧会協会）

令和4年度 林務課 予算の概要

県内では、大型製材工場やバイオマス発電燃料による木材需要の増加により、原木生産量は平成25年度の24万m³から令和2年度の49万m³へと大きく増加しています。

このような状況に対応し、必要な需要量を持続的に供給していくため、搬出間伐の促進とともに主伐による原木供給と再生林による資源循環型林業の確立に向けた取組を進めます。

また、市町による森林環境譲与税を活用した非経済林の間伐や「新たな森林管理システム」が円滑に進むよう「ひょうご森づくりサポートセンター」等を通じた市町支援を展開します。

県産木材利用促進については、「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、川上から川下までの関係者の連携と協働により、建築用材と燃料用材の2本柱でさらなる利用拡大に取り組みます。

凡例

- 【緊急】：森林林業緊急整備事業（県事業名）
- 〔補〕：令和3年度県補正予算措置分
- 【新】：新規事業
- 【拡】：拡充事業
- ※金額は令和4年度県当初予算ベース

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混



主伐・再生林地

交林化や天然林へと誘導する等、多様で健全な森林の整備を図る。

また、資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再生林に対する支援を実施する。

造林事業	1,240,000千円
（うち花粉発生源対策）	110,840千円
造林事業（R3当初→R4繰越）	413,397千円
（うち花粉発生源対策）	28,204千円
造林事業（R3経済対策補正）	〔補〕345,000千円
【緊急】間伐（R3経済対策補正）	〔補〕84,074千円
重要水源林機能高度化事業	22,000千円
資源循環林造成パイロット事業	12,000千円
針葉樹林と広葉樹林の混交整備事業	309,800千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業	24,867千円
--------------	----------

(3) 生産基盤の整備

ひょうご農林水産ビジョン2030の中間目標（令和7年度）達成に向け、令和7年度には、製材工場等に必要316千m³/年の原木と木質バイオマス発電向けの燃



搬出間伐

料用として見込まれる211千m³/年を合わせた527千m³/年の原木を低コストで安定的に供給できるよう、森林施業の団地化、林道や作業道等の林内路網の整備及び機械化などを支援する。

① 作業道整備及び機械化の推進

【緊急】林内路網整備	〔補〕163,000千円の内数(TPP関連)
森林資源活用システム整備事業	60,000千円(一部〔補〕)
県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円
【緊急】高性能林業機械等導入	〔補〕163,000千円の内数(TPP関連)

② 林道整備の促進

- ア 幹線林道の開設
森林基幹道開設：須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線
- イ 支線林道及び路網拠点整備
林業専用道：能栖線、大畑越知線(新規)
路網拠点整備：三川線ほか2路線
- ウ 林道の機能強化、維持管理
林道改良：瀨川・氷ノ山線ほか11路線
- エ 林道施設災害(県営、市町営)

【林道事業費】

公共林道事業費	668,371千円
	〔補〕109,000千円
県単独林道事業費	340,400千円
県単林道事業費(管理費)	52,233千円
林道施設災害復旧事業費	140,000千円

(4) 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。

林業技術普及費	4,929千円
---------	---------

2 林業の担い手の育成

(1) 次代の森林林業を担う人材の育成

県立森林大学校において森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費(教務手当含む)	49,191千円
緑の青年就業準備給付金	19,387千円

(2) 林業事業体の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において林業機械コースや森林経営コース、木材利用コースなど高度なカリキュラムを実施し、林業事業体における森林施業プランナー、現場技能者等の能力を高めるとともに、林業労働者の就労環境の改善、労働安全衛生の向上を図る。



伐倒練習機による安全研修

兵庫県立森林大学校運営費(教務手当含む)	49,191千円(再掲)
林業労働力育成対策事業	1,148千円

(3) 森林組合の育成

森林組合の事業活動を強化し、中核的担い手として育成するため、利用事業の展開や経営改善など自主的な取り組みへの支援、ガバナンス・コンプライアンス研修の実施、合併等の促進による経営基盤と役員研修や専門家派遣等による執行体制の強化を図る。

森林組合等経営基盤強化対策事業	2,226千円
森林組合機能強化資金貸付	900,000千円

(4) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業体に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金	100,000千円
木材産業等高度化推進資金	780,007千円
県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円(再掲)

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業	111,878千円
----------	-----------

(2) 県産木材の利用拡大

① 公共・民間施設の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進めるとともに、公共土木工事での県産木材の利用を進める。



CLTを活用した民間施設

【拡】ひょうご木の街木質化推進事業	12,000千円
非住宅木造建築物研修会	500千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

「ひょうご木の匠」登録工務店による県産木材を利用した魅力的な木造住宅の設計及び工務店グループによる県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、「ひょうごの木の家」設計支援事に業について、横架材に県産材を使う設計をした場合、これまでの300千円/件に100千円/件を加算し、400千円/件を支援し、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を図る。

【拡】「ひょうごの木の家」設計支援事業	55,000千円
「ひょうごの木の家」建築促進事業	2,000千円

③ 県産木材を使用した木製品の普及

県産木材を使用した製品の取扱事業者を「ひょうご木製品マイスター」として登録し、木製品活用事例集等により広く県民に紹介することで、県産木製品の普及・導入促進に繋げ、県産木材の利用拡大を図る。



県産木材製品

【拡】ひょうごの木づくり啓発推進事業	1,560千円
--------------------	---------

④ 県産木材の利用意識の醸成

住宅建築を検討している県民等を対象に、山の伐採作業から製材所での加工の様子、このような県産木材を使った木造住宅等の現地見学を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。

現地見学会の開催	1,320千円
----------	---------

⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援

バイオマスヤード整備事業	4,500千円
--------------	---------

県産木材利用促進特別融資事業	50,000千円
----------------	----------

(再掲)



バイオマス発電所

4 森林環境譲与税を活用した森づくりの推進

平成31年度から導入された森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備等を支援する。

(1) ひょうご森づくりサポートセンターの設置

県がひょうご森づくりサポートセンターを設置し、森林経営管理法制定を受けて市町が実施する森林経営管理法業務や森林整備事業業務、木材利用業務を支援する技術者の派遣等により、市町業務を総合的に支援する。

また、民間事業者による病院、商店街等の多数の利用が見込める施設に対しても、木材利用を促

進するための技術者の派遣等を行う。

【拡】ひょうご森づくりサポートセンター設置事業
55,260千円

(2) 森林クラウドを活用した森林情報の高度化

令和2年度に導入した森林クラウドシステムの適正な運用を行うとともに、システムに搭載する森林情報の精度向上を図り、円滑な森林整備の実施につなげる。

森林クラウド活用情報高度化事業 56,105千円

(3) 県立森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施

市町職員の専門能力向上を目的とした養成講座（森林林業の概要と実務、木材利用の実務、森林GIS等）を実施する。



市町職員養成講座

森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施 7,148千円

(4) 林業災害防止研修の実施

急増する急傾斜地等の条件不利地での立木伐倒作業等を安全に行う技術指導ができるリーダー人材を育成する。

伐倒練習機等を活用した林業災害防止研修の実施 3,672千円

(5) リモートセンシング技術者養成研修の実施

森林整備の急激な増加に対応するため、ドローン等を活用したリモートセンシング技術習得による測量業務を安全かつ円滑に実施するリーダー人材を育成する。

リモートセンシング技術者養成研修の実施 5,202千円

(6) 県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施

県産広葉樹苗木需要の増加に対応するため、生産者の確保及び技術継承を目的に、苗木生産技術習得に係る研修会を実施する。

県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施 976千円

(7) ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発

県民の森林環境税への理解を深めるため、森林環境税の趣旨や森林の公益的機能、木材利用の意義、市町の森林環境譲与税を使った取組等を紹介するフェアを開催する。

森づくり・木づかいフェア開催 1,000千円

(8) Jクレジット制度普及啓発

市町のJクレジット制度活用の取組を推進するため、制度の普及啓発及びJクレジット発行に向けた資料作成を支援する。

Jクレジット制度取組支援事業 1,100千円

令和4年度 林務課 主な事業 当初予算額
30,165,289千円 (対前年度比86.6%)
(+繰越R3→R4) 32,020,023千円 (対前年度比87.1%)

令和4年度 治山課

予算の概要

近年激甚化する山地災害への対策及び森林の適正管理と災害に強い森づくりを効率的に推進するため、令和4年度から「治山課」と「豊かな森づくり課・森林保全室」を統合します。

山地防災対策では、「第4次山地防災・土砂災害対策計画」（令和3年度～令和7年度）に基づき、人家等に直接被害を与える恐れのある溪流、人工林率の高い谷筋や0次谷の存在する山腹斜面のうち流木災害や崩壊の恐れのある箇所に対して、治山ダム等の整備を進めます。

あわせて森林の持つ多面的機能の維持向上を図るため、過密化した保安林での森林整備を行います。

ソフト対策では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催など、県民の避難行動に役立つ情報を提供します。

また、地域での防災マップ作成等の減災支援対策を行い、地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進します。

森林の適正管理では、「新ひょうごの森づくり・第3期対策（令和4年度～令和13年度）」に基づき、人工林の間伐対策、里山林の再生及び県民総参加の森づくりの推進を基本に、経済林としての再生を進めるとともに、森林の公益的機能の高度発揮を推進します。

また、緑の保全及び再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、超過課税である県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」に平成18年度から取り組み、森林の防災機能の強化を図っています。近年の記録的豪雨や台風による災害の甚大化、頻発化など依然として災害リスクは高く、今後も危険溪流等での対策が必要なことから、県民緑税を令和3年度から5年間延長し、第4期対策を実施しています。

さらに、森林の保全・管理、森林病虫害被害対策に取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「ひょうごの豊かな森づくり」を推進します。



流木捕捉機能を持つひょうご式治山ダム (朝来市山東町柴)

1 治山対策の推進

(1) 「第4次山地防災・土砂災害対策計画」の着実な推進 (R3～R7年度)

第4次山地防災・土砂災害対策計画 着手数

区分	着手箇所数 (箇所)
人家等保全対策	365
流木・土砂流防止対策	220
計	585

(2) 治山施設の長寿命化対策の推進

令和2年度に策定した個別施設計画に基づき、既設治山ダムの増厚または嵩上げなど治山施設の機能強化・長寿命化対策を進める。

(3) 森林整備の推進

森林の過密化により林床植生が消滅し、表土が流出する等、機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費	3,757,000千円
県単独治山事業費	265,000千円
県単独緊急防災事業費	1,473,000千円
合計	5,495,000千円
(別途3年度補正予算)	740,000千円)

「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」活用

2 新ひょうごの森づくり・第3期対策の推進

(1) 森林管理100%作戦

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林

について、国の公共造林事業による間伐の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。

・「森林管理100%作戦」推進事業 12,436千円 [間伐：1,000ha]



間伐を実施した人工林 (香美町)

(2) 里山林の再生

集落周辺の里山林の生活環境や景観の改良のため、地域住民等による森林整備



地域住民による伐採木のチップ化 (丹波市)

活動に対し、資機材の購入等の支援を行い、健全な里山林への誘導を図る。

(森林・山村多面的機能発揮対策交付金と一体的に実施)
・住民参画型里山林再生事業[240ha] 6,475千円

(3) (新)協働の森づくりの推進

漸減傾向の森林ボランティアを確保し、持続的な里山林整備を進めるため、若年層の取り込みに向けたイベントを開催し、さらに森林ボランティアの次代のリーダー等の養成により、県民総参加の森づくりを推進する。

・「ひょうご里山フェスタ」(旧ひょうごの森のまつり)の開催 1,020千円
・森林ボランティア・リーダー養成講座の開催 1,000千円

(4) 企業の森づくりの推進

企業・団体等が社会貢献活動の一環として所有者に代わって行う森林保全活動を支援することにより、多様な担い手による森づくりを推進する。

・企業・団体等の年間活動計画等の策定に係る指導等 1,226千円



森林ボランティア講座・伐採社員とその家族による活動地実習 (神戸市西区) での自然観察会 (小野市)

(5) 森林とふれあう公園の運営

森林ボランティア等の県民の参画と協働を基本理念として運営する三木山森林公園、ふるさとの森公園において、森づくり活動や自然観察のプログラム等の実施により、身近に自然と触れあう場を提供する。

・三木山森林公園管理運営事業 109,019千円
・ふるさとの森公園管理運営事業 [6公園] 178,778千円

3 県有環境林の管理

乱開発の抑制等を図るために取得し、良好な地域環境を保全してきた山林について、森林の公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

・県有環境林管理事業 [14地区2,473ha] 54,716千円

4 災害に強い森づくり・第4期対策の推進

県民緑税を活用し、危険渓流域の森林の土留工の設置や、野生動物との棲み分けを図るバッファゾーン等の設置などの森林整備を推進する。

(1) 県民緑税充当事業

- ・緊急防災林整備 899,220千円
[斜面对策：900ha、溪流対策：調査箇所21箇所、森林整備32箇所]



伐倒木を利用した土留工 (養父市)

簡易流木止め施設による流木の捕捉 (多可町)

- ・針葉樹林と広葉樹林の混交整備 309,800千円
[計画調査設計175ha、作業道開設205ha、広葉樹植栽230ha]
- ・里山防災林整備 566,100千円
[基本計画調査200ha、整備220ha]
- ・野生動物共生林整備 331,639千円
[基本計画調査360ha、森林整備431ha]
- ・住民参画型森林整備 27,000千円
[森林整備20ha]
- ・都市山防災林整備 61,000千円
[基本計画調査40ha、森林整備40ha]

5 森林の保全・管理

(1) 保安林の指定等

治山事業施行予定地などの保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。

- ・保安林等整備管理費 12,422千円

(2) 適正な開発行為への誘導

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における許可制度の適正な運用により、森林の保全を図る。

- ・林地開発許可制度実施費 1,720千円

(3) 森林の保全巡視

保安林等の森林において、無許可の伐採や開発

行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保全、啓発を行う。

- ・新ひょうごの森指導巡視事業 9,104千円

6 森林病虫害被害対策の推進

(1) 松くい虫被害対策

① 被害対策の概要

保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定め、特別防除、地上散布等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業（衛生伐）の駆除対策を組み合わせ、松林機能の保全を図る。

② 環境に配慮した駆除対策

農薬使用を軽減するため、被害木の搬出が可能な箇所については、伐採後に搬出した後、破砕での殺虫による特別伐倒駆除を推進する（対象区域：高度公益機能森林）。

③ 抵抗性マツの植栽

被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業を継続して実施する。

- ・予防対策（特別防除、地上散布） 17,687千円
- ・駆除対策（伐倒駆除、特別伐倒駆除） 25,705千円
- ・ひょうご元気松10万本植栽事業 1,100千円
- ・森林病虫害防除予防推進費（薬剤防除自然環境等影響調査ほか） 674千円

(2) ナラ枯れ対策

ナラ枯れによる倒木や落枝による人的な二次被害が予想される森林、保安林等防災機能の高度発揮を求められる森林、景観の悪化等が懸念される森林において、重点的な被害対策を実施する。

- ・その他法定病虫害駆除事業(ナラ枯れ被害対策) 35,399千円
(伐倒駆除(くん蒸)、噴霧剤処理(粘着剤塗布)、粘着シート)

(3) 被害木の景観対策

景観の保全が必要な箇所において、過年度枯れの松枯れ・ナラ枯れ被害木を伐倒処理する。

- ・県単独松くい虫被害等景観対策事業 6,870千円

令和4年度 治山課 主な事業 当初予算額
24,365,495千円 (対前年度比100.8%)

令和4年度 自然・鳥獣共生課
(野生鳥獣対策関連) 予算の概要

野生動物被害防止総合対策の推進

シカ・イノシシの捕獲拡大により農林業被害は全体的には減少傾向にありますが、被害が増加している地域もあるため、地域の実情に応じた野生動物の①個体数管理、②被害管理、③生息地管理を総合的・計画的に進めます。

1 シカ・イノシシ被害対策の推進

被害が大きく狩猟者が少ない地域等での有害捕獲の強化、狩猟期間中の捕獲の推進、集落ぐるみの被害対策に対する支援を実施します。

(1) 鳥獣被害集落自立サポート事業等 585,656千円

被害集落自らによる獣害防護柵の設置・点検・管理や野生動物の潜み場となる茂みの刈り払い等の被害対策の実施、出没を繰り返すシカ・イノシシ等の捕獲活動を促進するため、民間の獣害対策専門家によるカルテ・処方箋作成を支援するとともに捕獲と被害対策を担う集落リーダーの養成を行います。

また、市町職員の対策技術・知識向上のための実践研修を実施します。



【集落総出での獣害防護柵設置】

(2) 捕獲の拡大 558,799千円

シカ4.6万頭、イノシシ2.5万頭の捕獲達成に向け、市町による有害捕獲に加え、狩猟期の捕獲報償金による捕獲促進、高標高等の有害捕獲が困難な地域や県境付近森林での捕獲を推進します。また、ICT活用等導入促進により捕獲を強化します。

(3) シカ丸ごと1頭活用大作戦 170,316千円

捕獲したシカを食肉など地域資源として有効活用を図るため、処理加工施設等の整備、捕獲個体の処理加工施設への搬入・回収支援、冷凍車等の導入を支援します。ひょうごジビエの日(毎月6(ロク=鹿)日、16(シシ=4×4)日、第4火(シカ)曜日)の普及啓発により、食肉・ペットフード等へのシカ肉の需要拡大を図ります。

さらに、販売ロットの確保とコスト削減を図るため、県内の処理加工施設のネットワーク化によるシカ肉、皮、角の広域的な集荷・流通を支援します。

加えて、小学生へのジビエ普及のため、メダカのコタロー劇団による公演や小学生への学校給食へのシカ肉提供による試食機会を創出します。



【文鹿祭 (R4.2.22) の模様】

2 ツキノワグマ出没被害対策強化 11,161千円

生息数が増加しているツキノワグマの集落への出没や人身事故の発生を防止するため、不要果樹の除去、集落周辺部での有害捕獲の強化、追い払い等を実施します。

3 サル被害対策の強化 1,792千円

追い払い効果がない加害個体の捕獲を強化するとともに、市町でのサル群の動向追跡による出没情報の提供等を行うサル監視員の設置を支援します。

4 カワウ被害対策の強化 7,471千円

アユ食害を与えているカワウの個体数管理のため、擬卵置換等の繁殖抑制、営巣地や飛来地(銃猟可能なシューティングポイント)での捕獲等を支援します。また、ドローンによる追い込みやデコイによる誘引した銃での捕獲試験、タカ等による追い払い試験等を実施します。

5 狩猟後継者の確保・育成 14,780千円

狩猟への関心を高める狩猟体験会やフォーラムの開催、初心者向けの狩猟への理解を深める講習会等の開催により、狩猟者の確保を進めます。

さらに、新たな有害捕獲従事者向けの狩猟マイスター育成スクール等を実施します。

また、狩猟者の確保や、安全意識の高い狩猟者の育成、経験・技量や獣種に応じた捕獲技術の習得拠点となる「県立総合射撃場(仮称)」(三木市吉川町)の整備を進めます。(令和3年度繰越事業)

令和4年度 鳥獣対策課予算額

・野生動物保護管理費 1,349,975千円
(対前年度比 43.6%)



※イラスト(シカ):兵庫県森林動物研究センター提供

1 はじめに
 神戸市及び阪神間の各市町を普及指導対象とする神戸・阪神地域では人工林等は少なく、林業技術等の指導よりも、県民を対象とした身近な自然（環境）としての森林の楽しみ方や保全方法の指導、木材利用の意義の普及啓発などを主としたさまざまな普及指導活動を行っています。

特に、人口では県全体の約60%を占めており、都市生活の中で木材を利用する意識を醸成することでSDGsへの理解を高めることも意識した普及活動をしています。

また、共有の入会林野から移行した里山林を主体とする生産森林組合が比較的多く（神戸・阪神地域で23組合）あり、森林を適正に維持管理する観点から、その運営の指導も行っています。

2 R3普及指導活動
 (1) **こうべ森の文化祭2021**
 神戸市が六甲山にある再度公園で主催する当該イベントで、遊べ

る木製遊具や野生動物の剥製展示を通じて近隣都市部住民等の来場者に普及啓発を行いました。

(2) **獣害に強い集落づくり研修**
 神戸市西区平野町黒田地区では獣害対策の座学に加えて、具体的な現地指導を行いました。
 神戸・阪神間ではイノシシなどによる農作物被害に加えて人身被害も問題となっています。

(3) **高校生を対象とした普及**
 県立西宮今津高校一年生を対象に、森林・林業に関する講義、デイスカッションを行いました。



こうべ森の文化祭2021
 (神戸市北区 再度公園)



生産森林組合経理研修会
 (三田市総合福祉保険センター)



松林整備 (マツタケ山施業)
 現地指導 (猪名川町柏原ほか)

(4) **森林ボランティア活動の指導**
 森林ボランティアを対象として猪名川町等でセミナーや現地指導を行い、松枯れ被害跡地に健全で若いアカマツが育っていることも確認しました。

(5) **生産森林組合経理研修**
 神戸・阪神地域管内の23生産森林組合では連絡協議会（規約、会費等有り）を設置しており、会計事務所の専門家を招いて経理研修会及び相談会を行いました。

(6) **その他**
 これらの他に、「ひょうごの木」利用拡大神戸・阪神地域協議会を通じた市町関係者等に対する木材利用の意識醸成・情報提供や、マツクイ虫被害・ナラ枯れ被害木の安全な伐採に資する技術者育成研修、市町村森林整備計画の作成指導、緑の少年団の活動支援などの普及指導活動を行いました。

3 今後の取り組み
 都市部が多く、県内では相対的に森林の少ない（民有林面積は全県の約10%程度）神戸・阪神地域では、木材が日本の有する貴重な自給資源であり、森林を適正に維持管理することにより、再生可能な資源として循環利用出来ることを広く理解してもらい、積極的な利用を促進することが重要です。

これを進めるため、県民が身近な森林への興味と親しみを持てるような取組みや、木材の良さを直接感じて貰えるような取組みを進めるとともに、木材を積極的に使うことが長期間二酸化炭素を固定することになり、ひいてはSDGsにつながることも併せて普及啓発して行きたいと考えています。

農政専門員 土井 幸亮
 前里山・森林課長 野村 恵美

普及だより

都市部に暮らす県民のSDGsへの意識啓発に向けて

神戸県民センター
 神戸農林振興事務所
 阪神北県民局
 阪神農林振興事務所

令和4年度狩猟免許試験のご案内

兵庫県では、今年度も次のとおり狩猟免許試験を実施します。
 多くの方が免許を取得されますよう、ご案内いたします。

【狩猟免許とは】
 狩猟期間中にシカやイノシシなどの狩猟鳥獣を捕獲するのに必要な資格です。
 また、県や市町の許可を受けて実施する有害鳥獣捕獲にも原則必要です。

【狩猟の楽しみと公益性】
 狩猟は、ハンティングや料理を楽しむという魅力のほか、農林業被害を与える野生動物の生息頭数を適正に管理するという公益性も兼ね備えています。

【免許の種類】
 ・網猟（主に鳥類）
 ・わな猟（獣類のみ）
 ・第一種銃猟（装薬銃、空気銃）
 ・第二種銃猟（空気銃）

【試験の日程と場所】
1回目
 ◇申込期間
 5月23日(月)～6月10日(金)



令和4年度の技能講習・特別教育等のご案内
林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

1 はじめに
 当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業に従事するために必要な技能講習、特別教育等を開催しています。令和4年度は、右表の実施計画のとおり開催する予定ですので、関係する方々の受講をお願いします。

2 お申し込み方法
 開催日1か月前を目途に、開催案内を当支部のウェブサイトに掲載しますので、申込要領に沿ってお申し込みください。

3 お申し込み先、お問い合わせ先
 〒650-0012
 神戸市中央区北長狭通5-5-18
 林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部
 (兵庫県木材業協同組合連合会内)
 TEL078-371-0607

<http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/rinsaibou/>

◇**知識・適性・技能試験日及び場所**
 7月2日(土) 洲本市※、7月9日(土) 神戸市
 7月15日(金) 姫路市、7月23日(土) 養父市
 7月30日(土) 姫路市
 ※洲本市は「わな猟試験」のみ実施

2回目
 ◇**申込期間**
 7月19日(火)～8月12日(金)
 ◇**知識・適性・技能試験日及び場所**
 8月29日(月) 神戸市、9月3日(土) 神戸市
 9月16日(金) 神戸市、11月26日(土) 姫路市※
 ※姫路市は「わな猟試験」のみ実施

【お問い合わせ先】
 環境部自然・鳥獣共生課
 ☎(078-362-3463)

初心者狩猟講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が知識・技能に関する講習会を実施する予定です。
 日時、場所については、5月上旬に兵庫県猟友会のホームページでお知らせ致しますので、各自ご確認ください。
【お問い合わせ先】
 (一社)兵庫県猟友会 ☎(078-361-8127)

令和4年度 技能講習等実施計画

区分	名称	実施年月日	開催場所
技能講習	木材加工用機械作業主任者技能講習	令和4年 7月 6日(水)～7日(木)	姫路市市民会館 (姫路市総社本町)
	はい作業主任者技能講習	令和4年 8月 3日(水)～4日(木)	姫路市市民会館 (姫路市総社本町)
特別教育	伐木等の業務に係る特別教育 (チェーンソー作業従事者)	令和4年 4月20日(水)～22日(金)	<学科> 中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
		令和4年 6月 8日(水)～10日(金)	<実技> 中はりま森林組合 製材工場 他 (神崎郡神河町)
		令和4年 9月14日(水)～16日(金)	<実技> 中はりま森林組合 製材工場 他 (神崎郡神河町)
		令和4年11月 9日(水)～11日(金)	<実技> 中はりま森林組合 製材工場 他 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業安全衛生教育	令和4年 7月27日(水)～29日(金)	<学科> 中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
		令和4年 8月24日(水)～26日(金)	<実技> 中はりま森林組合 製材工場構内 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業安全衛生教育	令和4年 6月13日(月)	中はりま森林組合 会議室 及び 土場 (神崎郡神河町)
		令和4年 7月13日(水)	中はりま森林組合 会議室 及び 土場 (神崎郡神河町)
		令和4年 8月18日(木)	中はりま森林組合 会議室 及び 土場 (神崎郡神河町)
		令和4年10月 5日(水)	中はりま森林組合 会議室 及び 土場 (神崎郡神河町)

新たな指導林家・青年林業士の紹介

県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター

令和4年3月に認定されたばかりの新たな指導林家・青年林業士の皆さんを紹介いたします。

今回認定された6名を含め、総勢86名の指導林家・青年林業士とともに、皆さんが持ち前の技術やノウハウを活かし、普及指導に取り組んでまいります。

営計画は165haに及び、作業道路網を活用した搬出間伐に積極的に取り組んでおられます。

近年は皆伐から植栽まで、次代につながる林業経営にも意欲的に取り組まれ、地域林業を牽引されておられます。

指導林家 井上宜治

多可町加美区在住 45歳

井上木材（父子で経営）



井上さんは、平成14年に青年林業士に認定された後、森林施業プランナーの資格を取得し、多可町内で個人有林の集約化をすすめてこられました。作成された森林経営

指導林家 森本真樹

宍粟市山崎町在住 50歳

(株)森本建設 専務取締役



森本さんは、建設業者として13年前の作業道開設を機に林業に本格参入し、作業道開設から素材生産、植栽、防護柵設置まで幅広い仕事をこなし、現在90haの森林経営計画を作成されています。

建設業で磨いた技術を活かし、「四万十式」の壊れにくい作業道づくりに取り組み、素材業者の手に負えない急傾斜地・岩盤地の作業道開設に携わって、地域の素材生産を支えておられます。

指導林家 宗接営司

宍粟市山崎町在住 46歳

chibi-kicon代表



宗接さんは、県指導林家の清瀬八郎氏に師事し、高性能林業機械や架線集材を駆使した搬出間伐に取り組み、平成15年に青年林業士に認定されました。

持ち前の明るい性格で高校生インターンシップ等に協力されたほか、早くから森林施業プランナーの資格を取得し、個人有林が入り組み集約化の困難な地区で森林経営計画を280ha作成するなど、その手腕を発揮しておられます。

清瀬林業の右腕として同社を永く支えた後に独立起業され、現在はご夫婦で素材生産と木材のトラック運搬を営まれています。

青年林業士 石原淳平

宍粟市一宮町在住 39歳

(株)グリーン興産 代表取締役



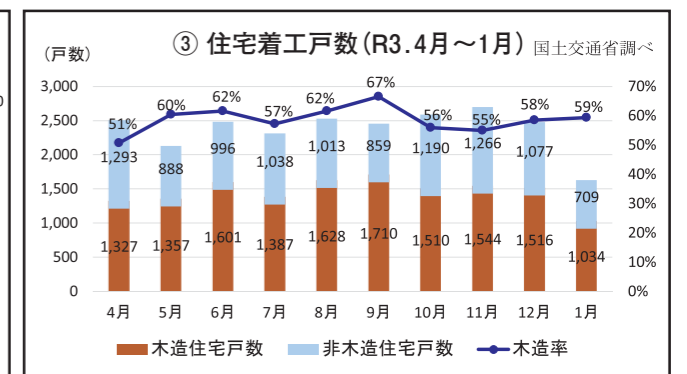
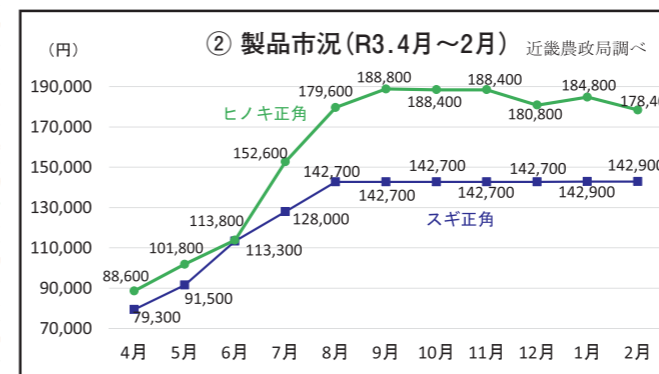
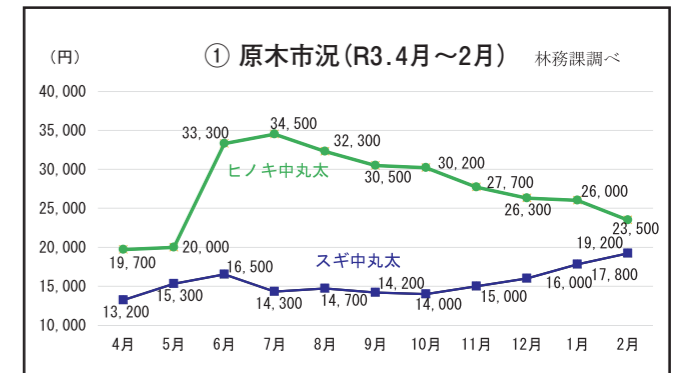
石原さんは、平成30年に県内屈指の林業事業体である(株)グリーン興産の社長に就任され、森林大学のインターン受入れ等、林業後継者育成に尽力されました。

兵庫県林業士をはじめ、森林整備士や林業技士の資格を取得するほか、ドローン等新たな技術の活用にも早くから取り組むなど、資質向上に努めてこられました。

また、令和3年度農林水産政策審議会委員にも就任するなど、活躍の幅をさらに広げられ、森林林業の担い手の代表として本県の農

<兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数>

- ・原木は、ヒノキは落ち着きを見せているものの、スギは合板用材の引き合いが強くなり値上がりしている。
- ・製品は、依然高止まりしている。
- ・住宅着工戸数は、1月は落ち込んでいるものの、昨年同月と同水準となっている。



林水産施策の発展につながる意見や提言をいただいております。

青年林業士 宮辻弘学

宍粟市一宮町在住 39歳

(株)宮辻造林 代表取締役



宮辻さんは、県内の林業事業体で11年間現場作業に従事した後、平成26年に独立起業し、間伐、植栽、下刈り等に取り組んでおられます。森林整備士、林業技士、フォレストマネージャー等の資格を取得し資質向上に努められているほか、林業就業相談会のトークショーに参加するなど、林業後継者の育成にも一役買っていたいただいております。

「良い森林を未来につなぎたい」という理念のもと、防護柵の点検補修をこつこつ継続し、シカの多い宍粟市でも木の生い茂った見事な造林地を実現されています。

青年林業士 山本竜矢

丹波市水上町在住 34歳

(株)山本木材 専務取締役



山本さんは、森林施業プランナー、兵庫県林業士、林業技士等多くの資格取得に努められ、森林経営計画を26ha作成するなど地域林業の集約化に尽力されました。

路網とハーベスタによる車両系のほか、架線による集材も手掛けるなど幅広い素材生産技術を持ち、また森林所有者へのさらなる還元を図るため、破砕機を導入するなど林地残材の活用にも積極的に取り組んでおられます。

なお、山本木材は、メインの素材生産に加え、丹波栗等の果樹栽培、しいたけ栽培、畜産等の複合経営が高く評価され、令和3年度全国林業経営推奨行事で林野庁長官賞を受賞されています。

(林業専門技術員 小長井信宏)

年度	供給量	生産量	外材輸入	備 考
昭33	1,034,200	542,000	413,450	111,750
昭34	1,384,700	532,300	741,500	110,900
昭35	1,527,500	628,700	741,600	157,200
昭36	2,000,000	630,000	1,143,500	227,500
昭37	2,100,000	630,000	1,170,000	300,000
昭40	2,550,000	880,000	1,070,000	600,000

木材需給状況 昭和37年6月号から



木馬による間伐材搬出(神崎町猪篠) 昭和33年9月号から



索道による木炭の運搬(養父町建屋) 昭和35年1月号から

年度	生産量	35年比	生産量	35年比
35	1,737	100	4,062	100
36	1,391	80	3,823	94
37	1,159	67	3,456	85
38	1,104	64	3,096	76
39	780	45	2,529	62
40	611	35	1,662	42

木炭生産・生産所帯の推移(昭和41年6月号から)

「兵庫の林業」は、昭和32年9月に兵庫県緑化推進委員会紙から林業関係団体総合紙に改編され創刊されました。以来65年、林業の移り変わりとともに歩んできましたが、ここで、かつての「兵庫の林業」の記事から、兵庫県林業の戦後史の一部を垣間見ることにします。

昭和30年代前半

戦後復興がやや落ち着き経済成長へと向かい、圧倒的に木材資源が不足していた時代です。森林資源の培養が国策でもあり、兵庫県林業の

「兵庫の林業」300号を振り返って
記事から見た兵庫の林業史

最大の課題でありました。木材の搬出には、左の写真のように奥山から木馬による搬出や索道による運材が行われていました。また、昭和30年代前半から、機械化が始まり、刈払機やチェーンソー、30年代半ばから集材機による架線集運材が行われるようになります。左上の記事から、昭和35年には、木材生産量63万m³、国有林・県外移入・外材輸入量が90万m³、合計153万m³が県内供給量とされ現在より多くの木材生産を行っていました。

昭和30年代後半以降、木材需給は、国内経済の動向



昭和30年代後半

木炭は、家庭燃料の王様として県内でも大量に生産され、農山村の主要な収入源として山村振興に寄与してきましたが、昭和30年代後半から石油・ガス・電化等によ

や外材輸入、代替材による需要減等、より複雑な形態となってきました。昭和34年9月の伊勢湾台風では但馬地域を中心に、全県で1300箇所、7.4億円(現在換算43億円)の甚大な被害を受けたとあり、円山川の氾濫による豊岡市内の惨状が表紙に載っています。

あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします。
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、県産材や地域産材の利活用に関する事など、何でもお気軽にご相談下さい。

■神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター

森林整備：☎078-381-5425 (兵庫県森林組合連合会内)
木材利用等：☎078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)
URL：www.hyogomori.jp/sc

JForest 兵庫県森林組合連合会
Hyogo Prefectural Federations of Forest Owners Cooperative Associations

士・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社 **グリーン興産**

〒671-4141
兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
TEL 0790(72)1553 FAX 0790(72)2327

GREENKOUSAN

営業品目
森林部門……素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門……公共土木・一般土木工事
緑化部門……公共緑化工事・一般造園工事
建築部門……新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL http://www.greenkousan.co.jp

森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理
緑と笑顔が私たちの基本です

株式会社 **西村風昇園**

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1
TEL(0796)23-5611 FAX(0796)22-4529
URL [http://fuukouen.com] E-mail [seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

・姫路本店
・神戸営業所

編集後記

このたび、第三〇〇号を機に、より読みやすく、より親しみやすく、多くの皆様に読んで戴けるよう装丁等をプッチリリニューアルしました。「あれっ、いつもと何か違うな」と思っていただけでしょか。

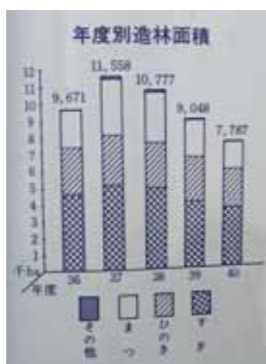
また、「兵庫の巨樹・巨木」シリーズが終了し、今回から新たに「ひょうごの木の物語」を連載します。県内の木造建造物など木に関するものの中から、現在も使われ、特長あるものを新旧とり混ぜご紹介したいと思います。これから取材を始めますので皆様からも情報をいただけたらありがたいと存じます。

新年度に入り、県庁の森林林業関係課の組織再編がなされ、林務・治山の2課体制になりました。行革が始まる少し前に戻った感じもありますが、何しろ人員が2割以上減っていますので、職員の皆さんの負担は大変です。心身の健康に留意され健闘をお祈りします。

コロナの感染状況は、落ち着いてきたものの依然注意が必要です。これまで同様の備えをしましょう。

毎日、胸の痛みニュースが続きます。二十世紀で懲りたのは日本人だけだったのでしょか。一日でも早く平和を取り戻すことを願ってやみません。

(事務局)



造林面積の推移(昭和42年9月号)

当時の造林長期計画によると、昭和70年度(28年後)には人工林面積30万ha、人工林率54%を目ざす遠大な計画でした。

農山村にとって拡大造林事業は、経済成長に伴う都市への人口流出や薪・木炭生産の激減などにより疲弊する山村の就業機会創出や現金収入確保等地域社会の維持に貢献する重要な役割も果たしていました。

兵庫県林業会議 菅原 健 (続く)

緑を育み水をつくる水源林造成事業

分取林方式により、水源林造成事業を進めています
対象地は無立木地など、公益的機能の低下した水源かん養保安林です

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL(078)362-5800
FAX(078)362-5802

兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
(兵庫県林業会館内)

災害のない安全で安心な社会

- 治山、林道、造林事業の推進
- 山地防災・土砂災害対策計画



一般社団法人 兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632

HP 兵庫県治山林道協会



木材でつくる 美しい景観、住みよい街

木材は、持続可能な人と環境にやさしい資材です。
生活の一部に木を取り入れるとともに、都市部の木造・木質化を図ることで、環境に配慮しながら安全かつ美しい景観を作り出し、住みよい街づくりを推進します。

兵庫県木材業協同組合連合会



都市木造で美しい景観を

都市部のビルにも木造が導入されています。木造材には、品質・性能が明確な「JIS規格」の木材が使用されています。

外観部に木材を

扉などの外観部に木材を使用し、美しい景観と安全・安心な環境の確保に努めています。加えて、防蟻効果ももたらしています。

木材を安全に使用するために

防火地域等でも安心して木材を使用したい。ため、耐火性能の高い木材や、耐火塗料の使用を推進しています。

兵庫県木材業協同組合連合会
Tel 078-371-0001 Fax 078-371-7962 E-mail hyogokurumokai@hyogop.or.jp

緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、子どもたちの環境学習などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法でお願いいたします。

ご寄附の方法

1 金融機関からのお振込み

- ①郵便局 (手数料不要)
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
- ②銀行 (手数料必要)
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会



募金のページQRコード

2 キャッシュレス決済

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071
HP <https://hyogo-green.net/>

兵庫県緑化推進協会 検索



ひょうご木の匠の会

兵庫県産木材の家



ひょうご木の匠の会 会長 日置尚文 (日置建設(株))
(事務局) 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議
<https://hyogo-kinotakumi.com> TEL:078-351-3341

私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に
優しい木造住宅を提案し建築します。

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

フレック® 粒剤10

マツガード®

発売元 正和商事株式会社

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

“治山・林道測量”

は経験と実績のある



株式会社 石原測量コンサルタント

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
Tel (0790) 63-1377
Fax (0790) 63-1398
営業所 兵庫県姫路市夢前町筋野1078-3
Tel (079) 336-1418



■550XP/XPG-MarkII

NEW



AutoTune

■排気量：50.1cm³ ■質量：5.3/5.5kg(XPG)
■出力：2.8KW

本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、
プロが認めるチェーンソーの最高峰です。
革新的な技術を融合し、これまで以上の加速と
トルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。
新登場550XP-Mark II、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181番(代)
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

ひょうごの木の物語

第1回 石堂家住宅(佐用町)

概要 江戸中期の明和2年(1765)に建築され、以来250年余経過し現在も居住されている石堂則本氏の住宅を紹介します。江戸時代安志藩小笠原家の佐用11カ村の大庄屋で、豪農の生活様式を今に伝える建築物で国の登録有形文化財に指定されています。中に入ると居住まいを正した侍が端座しているような錯覚を覚えます。

左右
主屋
縁側と手水鉢



広い敷地内には主屋のほか、向屋敷(離れ)、本蔵・内蔵、角屋、西門、井戸屋、表門、中門、庭などが配置され、土塀や漆喰塗り真壁に囲まれています。

庭の東側には、樹齢300年と推定される胸高1m近いクスノキとモミの大木が聳えています。また、江戸時代に岐阜から運ばれたという、さざれ石が配置されています。

庭の大木
左クスノキ
右モミ



庭の細石(さざれ石)

主屋と材種 主屋は、木造入母屋造で茅葺きの桁行22.7m(マツ)、梁間11.8m(マツ)の大型民家で、柱はクリやケヤキ、梁や長押はマツ、床や敷居には、サクラやツガが使われ、構造材は建築当時のもので、床板等は明治以降修理されたものが多いということです。

また、南面の西側に土間、東側表には奥座敷を配し正玄関や縁側が巡っている。正玄関は、かつては武士や僧侶など身分の高いとされる人々のみが利用し、駕籠からそのまま屋敷へ上られるよう、ケヤキ板の式台が設けられています。



ケヤキの式台

正玄関

風格のある表門 敷地の南辺中央に間口2.6mの表門を配し、切妻造本瓦葺で左右に袖を付け西袖に潜戸(くぐりど)があります。江戸後期に建造され、太いケヤキの柱と家紋をあしらった瓦屋根から格式の高さが窺えます。



表門

茅葺屋根

維持が大変な茅葺 現在でも約20年毎に大改修によって、傷んだ箇所を葺きを入れ替える必要があり、その担い手や材料の確保などで、大きな負担となっているようです。

経営森林の状況 林業家としても著名な石堂氏ですが経営林は、自宅周辺に約270haの森林を所有し、スギ・ヒノキの人工林は、約120haで、そのうち約80aが100年を超える人工林です。

石堂家の林業は、政治家を志す曾祖父が、当時、佐用郡に逗留していた実業家金原明善翁から、「政治より植林に励め」と諭されたのを機に、一代で約80haの植林を実行したことに始まると則本氏は語ります。



主伐材の積み替え土場にて

120年生スギと石堂氏

以降、父の代で30~40ha植林し、則本氏は、間伐や枝打ちなどの保育や抜き伐りを中心に、少しずつ主伐も実行しているが、シカの造林木被害が顕著なため、造林樹種の選択に迷いがあると言われています。

林業の展望 「昨年来、ウッドショックに国内の木材価格等が大きく動き、今は、国際情勢が激しく揺れ、先が見えない。外材に頼らずとも日本の木材資源量は十分蓄積があり、これから林業の力が発揮できる時代が来る」と穏やかな表情の中にも熱い思いがうかがえます。

(「ひょうごの木の物語」取材チーム 菅原 健)